

別紙様式3

平成28年度 第2回 不破高等学校活性化協議会 議事要旨

日 時	平成28年 10月28日(金) 13:30~15:00
場 所	不破高校 ガイダンス室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>神谷 憲一 垂井町立不破中学校校長 竹内 治彦 岐阜経済大学副学長 中川 敏之 関ヶ原町教育委員会教育長 中川 満也 垂井町長 西川 一明 垂井町宮代公民館館長 西脇 康世 関ヶ原町長 丹羽 豊次 不破高校同窓会長 藤壇 守 岐阜県議会議員 三浦 高雄 垂井町商工会事務局長 安田 直美 不破高校PTA副会長</p> <p>(高校側)</p> <p>岩田 善隆 校長 棚橋 毅 教頭 橋 博 教務主任 川瀬 英樹 進路指導部長 下野恵理子 特別活動部長</p>
議事概要	<p>1 高校の現状と活性化の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠方からの通学を可能にするため9時始業としたこと、きめ細かな授業やユニバーサルデザインによる授業改善がなされ、教室環境が整備されていること等は、不破高校の大変大きな魅力だと感じている。 ・ 生徒は落ち着いており、気持ちの良い挨拶をしてくれる。 ・ 社会貢献、地域貢献できる人材、多様な人材を育成してほしい。 ・ キャリア教育の推進、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の推進、積極的な地域連携活動、部活動の活性化が、今後の中心的な課題になるのではないか。 ・ 生徒が校内で仲間意識を高める工夫をしたい。 ・ 引き続きアクティブ・ラーニング等の授業改善を推進していきたい。ペア学習やグループワークによってコミュニケーション能力の育成も図られていると考えているが、指導を通じて課題も明らかになってきたところである。 ・ デュアルシステムについては、校内外の課題を把握しながら、積極的に検討を進める必要があるのではないか。 ・ 連携型中高一貫教育校や連携型入試の導入についても検討をしてはどうか。 ・ 「不破高フォーラム(職員による話し合い)」を今後も定期的実施することが有効ではないか。

- ・ 中学生が不破高校の現状把握をするために、ホームページの充実を図るとよい。「不破高 Today」のページは中学生やその保護者から好評を得ている。さらに、不破高生の活動を生徒自身の言葉で表現させるとよいのではないか。
- ・ 通学の利便性を高めるため、垂井駅と不破高校をつなぐバスの運行について、垂井町に検討いただいているところである。

2 部活動の活性化について

- ・ 生徒に自信やプライドをもたせるためには部活動の活性化が有効であり、そのためには、優秀な指導者が不可欠である。
- ・ 部活動の活性化とは、決して大会で目覚ましい成績を上げることではない。生徒が部活動に一生懸命に取り組むことが最も大切だと考えている。
- ・ 生徒の部活動加入率を増加させ、各部活動に魅力をもたせるための工夫をすることが重要である。
- ・ 不破高校として、部活動を充実しアピールする。そのためには、目玉となる部を作ることを検討するとよいのではないか。既存の部活動だけでなく、スイングジャズ等の新設も検討してはどうか。吹奏楽は人数が必要であるが、スイングジャズなら少人数でも可能である。
- ・ 放課後の部活動の活性化と合わせて、アルバイトの在り方についても検討を進めていきたい。